

一人ひとりが助け合い、支え合って生きていくこと。一人ひとりがだれかのため、何かのためにできることを考え、行動すること。私はボランティア活動から、それらの意味や、大切さを学びました。

私はこの夏休みにボランティアの活動をしました。豪雨による災害で大きな被害を受けた、九州北部に住む人々のための募金活動です。私は最初、この募金活動が少しゆううつでした。父に、

「被害にあった人々を支援しよう。」

と言われ、参加を決めたのですが、活動日が近づくにつれ、だんだんと面倒だと思ってしまうようになってしまいました。自分でも、助け合いや支え合いがとても大切なことはわかっていました。けれど、どうしても

「どうして私がやらなければならないのだろう。私一人くらいいなくても、大して変わらないのに。」

と考えてしまう弱い気持ちを消すことができませんでした。

活動当日、私は暗い気分のまま、他の参加者と同じように募金箱をかかえて立っていました。目の前をたくさんの人々が早足で通りすぎ、だれも止まってくれません。

「ご協力、よろしくお願いします。」

と声をかけると、やっと数人が立ち止まって、お金を入れてくれました。少しうれしくなりましたが、二、三人ではまだほんの少ししか集まりません。これでは足りない、とあせつた私は、懸命に声を続けました。

「活動終了です。おつかれ様でした。」

その声にはっと気がつく、開始から二時間ほどがたっていました。手元の募金箱にはたくさんのお小銭が入り、重たくなっています。そのまま回収係の人にわたすと、

「ありがとうございます。」

と声をかけてくれました。

「少しずつだけど、たくさんの方が募金してくれたおかげで、多くの金額が集まったよ。」その言葉を聞いたとき、自分が役に立てたことを実感し、やってよかったと思いました。

私はこれまで、いつもどこか他人まかせでした。だれかがやってくれるから、私一人がやらなくたって、という考えが私の中にあっただけだと思います。でも、この募金活動で、一人の力の大きさを知りました。人が一人でできることはかぎられています。百円玉だけでは、人を助けることはできません。しかし、全員が自分にできることを行えば、それは大きな力になると思います。百円玉も、一万枚集まれば百万円になります。どんな小さなことでも、大きなものになることができます。この募金活動から学びました。

私は、自分にできることを行えるようにしたいです。どんなことも、大きな力になると信じ、行動したいと思います。